

日本母性看護学会誌 論文投稿規定

1. 投稿者の資格

本誌への投稿は共著者も含めて全員が本学会の会員であるとする。但し、編集委員会から依頼された原稿はこの限りではない。

2. 投稿原稿の種類

1) 投稿原稿の種類

論文の種類は、総説、原著、研究報告、実践報告、その他とし、原稿にその何れかを明記する。

【総説】母性看護学に関わる特定のテーマについて文献等をレビューして、当該テーマについて分析・概説し、考察したもの。

【原著】独創的で新しい知見が論理的に示されており、信頼性が高く、学術上の価値があると認められたもの。

【研究報告】独創性、新規性、学術上の価値は原著論文に及ばないが、母性看護学の発展に寄与すると認められるもの。

【実践報告】看護実践の成果報告であり、母性看護実践の向上に寄与すると認められるもの。事例報告を含む。

【その他】母性看護学に関連した内容で、編集委員会が適当と認めたもの。

2) 投稿論文の内容

母性看護学の向上と発展に寄与するものであり、他誌に発表あるいは投稿されていないものに限る。

3. 倫理的配慮

人および動物を研究対象とする場合は、研究の実施にあたり研究対象に対する倫理的配慮を講じるとともに、その内容を本文中に明記する。原則として倫理審査を受審し、承認を得ること。承認を得た場合は、その名称と承認番号を本文中に明記し、承認を証明する書類を提出する。

4. 利益相反**に関する事項の開示

投稿にあたり、共著者を含めたすべての著者は当該論文の「自己申告による利益相反報告書」を提出すること。また、企業等との利益相反事項の有無については論文の末尾（文献の前）に「利益相反」の欄を設け、明記すること。利益相反事項がある場合は「著者〇〇〇〇は△△株式会社との間に本論文内容に関連する利益相反を有する。」と企業・団体名も記載する。利益相反事項がない場合は「本研究における利益相反はない。」と記載する。

**利益相反：「外部との経済的な利益関係等によって、公的研究で必要とされる公正かつ適正な判断が損なわれる、または損なわれているのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態」（厚生労働科学研究における利益相反（Conflict of Interest：COI）の管理に関する指針」（平成20年3月31日科発第0331001号）。

5. 投稿手続

- 1) 本文原稿(査読用)、図表のPDFファイルを作成する。（詳細は8. 原稿執筆要領を参照）
- 2) 「倫理審査委員会の承認を証明する書類」および「自己申告による利益相反報告書」、「著作権譲渡同意書」をPDFファイルにする。原著を希望する場合は、英文抄録に関する「英語母国語者のチェックを証明する書類」をPDFファイルにする。
- 3) 電子投稿システムに沿って、著者アカウントを作成し、論文種別、和文タイトル/英文タイトル、和文抄録を入力する。（詳細は投稿マニュアルを参照）
- 4) 上記1)、2) ファイルを、オンライン投稿システム「ScholarOne Manuscripts™」にアップロードする。
- 5) キーワード（和文/英文）を入力する。
- 6) 共著者を入力する。
- 7) システム上で、投稿チェック欄のすべての項

目の点検確認を行う。

- 8) 上記1) から7) のすべての情報およびファイルを電子投稿システムの指示に従って提出する。

6. 論文の受付および採否

- 1) 電子投稿システムに投稿された日を受付日とする。受付日と到着順に付す受付番号とを、投稿者に通知する。
- 2) 投稿論文の採否は、査読を経て編集委員会が決定する。その日を論文の受理日とする。
- 3) 採否は本人に通知し、投稿された論文は理由の如何を問わず返却しない。
- 4) 編集委員会の判定により、論文の種類の変更を著者に求めることがある。
- 5) 論文採択後は速やかに、表紙（和文・英文タイトルおよび著者名、所属機関を明記）、本文原稿（入稿用：本文伏せ字部分を明記）と図表ファイルを電子投稿システムにアップロードする。

7. 著者校正

著者校正を1回行う。但し、校正の際の新たな加筆は認めない。

8. 原稿執筆要領

別に定める。

9. 著者が負担すべき費用

- 1) 掲載料

論文の掲載料は、無料とする。但し、特別な費用

を必要とした場合は著者負担とする。

- 2) 別刷料

論文の別刷りは、全て実費を著者負担とする。

10. 著作権

本誌に掲載した論文の著作権はすべて本学会に所属する。掲載後は本学会の承諾なしに他誌に掲載することを禁ずる。

著作権譲渡同意書は、共著者全員の署名も必要である。

本誌の論文を所属機関のリポジトリ等に収載する場合は、登録許可申請書（形式は自由）を事務局宛に郵送・メール添付（署名が必須）し、編集委員会で審議決定して許可をする。許可の通知を事務局から送る。

付則

この規定は1999年12月12日から施行する。

この規定の改正は2006年6月17日から施行する。

この規定の改正は2010年2月14日から施行する。

この規定の改正は2011年3月10日から施行する。

この規定の改正は2014年6月27日から施行する。

この規定の改正は2014年9月8日から施行する。

この規定の改正は2015年8月1日から施行する。

この規定の改正は2016年4月1日から施行する。

この規定の改正は2019年4月1日から施行する。

この規定の改正は2022年4月1日から施行する。

日本母性看護学会誌 原稿執筆要領

1. 書式・句読点について

- 1) 本文は、原則として Microsoft 社の Word を使用し、図は Word・Excel・PowerPoint、表は Word・Excel で作成する。Excel または PowerPoint 以外のソフトで作成した図表は、JPEG または PDF 形式で保存する。
- 2) 本文原稿は、和文抄録 400 字程度、和文キーワード 3 語程度、本文、の順に作成する。原著を希望する場合には、英文抄録 250 語程度と英文キーワード 3 語程度を本文の後ろにつける。
- 3) 原稿の種類を問わず、本文、引用文献、図表を含めて 1 編につき、A4 判の用紙に横書き 1,200 字 (40 字×30 行) で 13 枚(15,600 字以内)を限度とする。和文抄録、和文キーワード、英文抄録、英文キーワードは文字数に含まない。
フォントは MS 明朝体、英数字は Times New Roman で半角、本文の文字の大きさは 11 ポイントを使用し、書式は左右余白 25mm、上下余白 30mm とし、1 行の文字数は 40 字、1 ページの行数は 30 行となるように設定する。
- 4) 句読点は「、」「。」で統一する。
- 5) 原稿 (本文、図表) には、MS Word の校閲機能による変更履歴・コメントを使用しない。
- 6) 見出しは、章 (I・II・III...)、節 (1・2・3...)、項 【(1)・(2)・(3) ...】、項の下は 【(1)・(2)・(3) ...】 で記載し、ゴシック体とする。
- 7) 下の余白にはページ数、「文書のレイアウト」機能で左余白には行番号 (連続番号) を入れる。

2. 図表について

- 1) 表はひとつずつ A4 判用紙に配置し、最上段左端に、出現順に「表 1」のように通し番号を振り、そのあとに全角スペース分空けてからタイトル名を簡潔に示す。
- 2) 表の罫線は必要な横罫線だけにとどめ、縦罫線は使用しない。
- 3) 数字は正、負の数に関わらず、同列内の小数点の位置、小数点以下の桁数 (有効数字に応じて) を揃える。
- 4) 表中の数字が理論的に必ず 1 未満になる場合 (相関係数など) は、0 を付けずに「.52」のように小数点以下のみで記載する。たとえば、「0.52」の場合は、「.52」と記載する。
- 5) 図はひとつずつ A4 判用紙に配置し、最下段左端に、出現順に「図 1」のように通し番号を振り、そのあとに全角スペース分空けてからタイトル名を簡潔に示す。
- 6) 図表の文字数の目安は、仕上がり 1/2 頁の場合 1,150 文字換算、仕上がり 1 頁の場合 2,300 文字換算である。なお、図表の文字の大きさは、原則 10.5 ポイント以上を目安とする。すべてをまとめた PDF ファイルを作成する。

図表の挿入位置は、1 行を使って以下のように示す。

— 例 —

—図 1 挿入— (この分の文字数はカウントしない)

3. 引用文献について

- 1) 文中の引用文献には引用順に番号を付記し、引用文献は原稿末尾に一括して番号順に記載する。雑誌名

は原則として省略しない。引用文献は主要論文に限定し、その記載は次の形式による。ただし、共著者は3名まで表記し、それ以上は他（英語文献の場合 et al.）とする。

(1) 雑誌の場合は、著者名：論文題名，雑誌名，巻（号），頁一頁，西暦年。

－ 例 －

佐藤一郎，鈴木さくら，田中二郎他：第1子出産後の家族の適応過程，日本母性看護学会誌，2(3)，11-18，2000.

Author, A., Author, B., Author, C. et al.: Title of article, Title of Journal, vol(no), pp-pp, Year.

(2) 単行書の場合は、著者名：書名（監修者名），版，頁一頁，発行所，西暦年。

－ 例 －

佐藤一郎：看護研究入門，第3版，35-52，看護研究出版，2000.

Author, A.: Title of work, 2nd ed, pp-pp, Publisher, Year.

(3) 翻訳書の場合は、原著者名（原書の発行西暦年）／訳者名訳：翻訳書の書名，版，頁一頁，発行所，西暦年。

－ 例 －

Author, A. A., Author, B. (Year) / 佐藤一郎，鈴木さくら訳：母性看護の理論，第2版，8-16，看護研究出版，2000.

(4) 分担執筆の文献で著者と書籍に編者（監修者）が存在する場合は、著者名：表題，編集者名（編），書籍名（引用箇所の開始ページ-終了ページ），出版社名，西暦年。

－ 例 －

鈴木さくら：母子のケア，鈴木さくら，田中二郎（編），母性看護学（201-230），看護研究出版，2000.

Author, B.B.: Title of chapter or entry. In A. Editor, & B. Editor (Eds.), Title of book (pp-pp), Publisher, Year.

(5) 電子文献の場合

① DOIがある学術論文

著者名：論文名，雑誌名，巻（号），頁一頁，出版年，<https://doi.org/xxxxxxx>

Author, A. A., Author, B. B.: Title of article, Title of Journal, vol(no), pp-pp, Year, <https://doi.org/xxxxxxx>

② DOIのない学術論文

無料で論文にアクセスできる雑誌は、雑誌のトップページへのリンクを記載

著者名：論文名，雑誌名，巻（号），頁一頁，出版年，<http://www.xxxxxxx>（年-月-日アクセス）

Author, A. A., Author, B. B.: Title of article, Title of Journal, vol(no), pp-pp, Year, Retrieved from <http://www.xxxxxxx> (accessed Year-Month-Day)

③ DOIがある書籍

著者名：書名（監修者名），発行所，西暦年，<https://doi.org/xxxxxxx>

Author, A. A., Author, B. B.: Title of book, Publisher, Year, <https://doi.org/xxxxxxx>

④ DOIのない書籍

著者名：書名（監修者名），発行所，西暦年，<http://www.xxxxxxx>（年-月-日アクセス）

Author, A. A., Author, B. B.: Title of book, Publisher, Year, Retrieved from <http://www.xxxxxxx> (accessed Year-Month-Day)

- ⑤ DOIがある電子書籍の1章または一部
著者名：章のタイトル，編集者名（編），書名（頁一頁），発行所，西暦年，<https://doi.org/xxxxxxx>
Author, A. A., Author, B. B.: Title of chapter, In C. Editor, D. Editor (Eds), Title of book (pp-pp), Publisher, Year, <https://doi.org/xxxxxxx>
- ⑥ DOIのない電子書籍の1章または一部
著者名：章のタイトル，編集者名（編），書名（頁一頁），発行所，西暦年，<http://www.xxxxxxx>
（年-月-日アクセス）
Author, A. A., Author, B. B.: Title of chapter, In C. Editor, D. Editor (Eds), Title of book (pp-pp), Publisher, Year, Retrieved from <http://www.xxxxxxx> (accessed Year-Month-Day)
- ⑦ Web サイト、Web ページ
著者名：Web ページの題名，Web サイトの名称，投稿・掲載の年月日，<http://www.xxxxxxx>（年-月-日アクセス）
Author, A.: Title of Web page, Title of Web site, Year, Month, Day, Retrieved from <http://www.xxxxxxx> (accessed Year-Month-Day)

4. 原稿作成時の注意事項

- 1) 日本母性看護学会で発表したもの、修士・博士論文に加筆・修正を加えたものは、末尾にその旨を明記する。

－ 例 －

本論文は、●●大学大学院●●研究科に提出した修士（博士）論文に加筆・修正を加えたものである。

- 2) 本文原稿（査読用）は、投稿者の匿名性保持のため著者が特定される氏名や所属、倫理審査委員会名称（承認番号）、謝辞、利益相反等の記載箇所は伏せ字にする。

－ 例 －

本研究は、●●大学の研究倫理審査委員会(承認番号●-●)の承認を得てから研究を開始した。

- 3) 英文抄録、題名、キーワードは英語母国語者のチェックを必要とする。
- 4) キーワードは、英語は MeSH、日本語は医中誌 Web のシソーラスであることを確認し、英語はアルファベット順、日本語は五十音順で記載する。
- 5) オンライン投稿システムに沿って、カバーレターの内容を入力する。カバーレターには、オーサーシップ、利益相反、他誌に発表あるいは投稿されていないことの3点を、必ず記載する。その他、投稿論文に関する説明等（学位論文の一部であること等）、編集委員会に伝えたいことを記載してかまわない。
- (1) オーサーシップ：論文における各著者の原稿への貢献を記載する。著者（オーサー）とは、投稿された論文に重要な知的貢献をした者であり、以下の4点すべてを満たさなければならない。

- ① 研究の構想・設計、あるいはデータ収集、あるいはデータ分析・解釈への、実質的な貢献
- ② 論文の作成、または知的内容に関わる重要な批判的校閲への関与
- ③ 出版原稿の最終承認
- ④ 研究のすべての面に対して説明責任があることへの同意

資金の獲得、データ収集、または研究グループへの部分的な助言のみを行った者は著者にあたらない。

上記4点の基準を満たさない研究貢献者は、謝辞に記載する。各著者の貢献内容の示し方の例を示す。

－例－

AB および CD は研究の着想および設計、EF はデータ収集、GH は分析の実施と解釈に貢献した。すべての著者は論文作成に関わり、最終原稿を読み、承認した。

- (2) 利益相反：利益相反事項がない場合は「本研究における利益相反はない」と記載する。(利益相反については、「自己申告による利益相反報告書」の提出も必要)
- (3) 他誌に発表あるいは投稿されていないことを記載する。

(2023年3月23日変更)